岡崎久彦文語賞

文通(ふみかよ)はし

日高聰子

一筆濕しまゐらせそろ 卒業以來の御無沙汰さてもさてもあさましきまで、この頃はいかが過ぐしたまふ御主人は恙無しや御子らは今いくたりかものしたまふ、昔より才女の名高かりし君なれば、御得意の英語もて通譯まれ翻譯家まれ華々しき御仕事得たまひ定めて御多忙にぞおはすらむ、もとより我らがやうなる橢人とは進む道も異なりこよなかるべき人と心には思ひ知りながら、そのかみ横一列に机竝べしともがらの毎回の同窗會缺席さびし、少しは御近況聞かせたまへ、さいつ頃たまさかに行き會ひし道子様より御住所其處其處と聞き得たれば、かかる田舍者を御記憶いかがと覺束ななながら、ゆかしさまさりてかくおどろかしきこゆるぞかし、御返信賜らばいといと嬉しく　かしこ

御ふみ拜受　まことはこれよりこそおとづれ聞こゆべかりしを、ここらの年頃はかなき雜事にとり紛れ無音重ねてける返す返す許したまへ、さるは御推し量りにたがひて未だ獨り身なれば夫もなし子供もなし、世間にてはオールドミス行かず後家と呼ばるる身の、さすがに仕事ばかりは年數重ねて若き人々に物いふ立場となりにたるは、それも通譯翻譯家なんどやうの花やかなるにはあらであぢきなの銀行勤め、日々人様の札束數へ頭を下げて暮るる年月ぞかし、君こそは早々と良緣に惠まれ御實家近くに大きなる邸宅構へたまふと風の便りに聞きしか、論なうこと足らひ御平かに過ぐしたまふべし、昔は御菓子作り

の上手におはせしを今もさることとして樂しみたまふか、近くならましかばかたみに行き通ひ心やすくあひ語らひてもあらましを、いかなるにか上京してより二十年あまり、故郷のかたに足を向くるはそぞろにもの憂き心地して、親の顔も久しく見に歸らず無下の不孝者にぞなりにて侍るや、御身に比べてこよなけれどまづは御めづらしさに　あらあらかしこ

御水莖の昔に變はらぬをうちかへしまもりはべりつつ、きのふは道子樣と夜ひと夜電話にて御噂きこえしぞかし、かの人はた御身の上は詳しくも知らで同窗會幹事通し御住所のみかつがつ聞き得たりとか、今も緣づきたまはず銀行勤めしたまふなるこの頃の都會の人はさるやうこそ多かめれとうち言ひしを、かの人聞きとがめそれまことかと俄に聲音改めて、さればよ未だ嫁ぎたまはざなるとは一度人づてに聞きしかど、さることはよもあらじさばかり形よくめでたかりし人のかかる年まで緣組したまはぬ、まづは周りの人々の口入れぬべきことかはとまこととは思はでありつるに、それ疑ひなきことにもあらばおもなくうち出でまほしきことの一つはべるを、みづから言ひ出でむはいささか具合惡し、友達甲斐にまづ傳へやはしたまはぬとせちに言ひ言ふ、何事ならむうちつけに賴み事すべき人にもあらぬをと片耳に聞けば、さるは御覺えやはべるべき實家の末の兄、昔二度三度忘れ物を屆けに我らが教室さし覗きしことのある、それも未だ獨身にてここらの年頃あまたの緣談に背を向け親の諫めに耳も貸さぬを、去年祖父の法事に顏合はせたるに、汝が高校の同級生しかじかとかいふなる人、風の便りに聞けば今も身を固めず仕事一筋となむ、昔はお下げ小町と他校にも知られし美人のなど緣遠くは過ぐすらむ、五十路近き

男の我だになほかかる席には親戚連に見合ひ見合ひと責めらるるを、ましてかの人は女にもありさる器量にもありみな人ただにはゆるすまじきをと例ならず關心ありげなりしを、これは昔むかしの片戀の、あり經て色にぞ出でぬるかとなまをかしくもあはれにもかたがたに思はれて、いさや美女と野獸と世の中にもて騷ぐカップルのなくやはある、言ひもてゆけば何事も緣蓼食ふ蟲も好き好きなればおほけなくもこのことといかでかと願ふ心のつきにしを、こよひかの御消息君より傳へ聞きつるもさることにて、かの人もつひには寄る邊あり御輿入れしたまふべければ、この兄がことただ僅かに、この世にありて思ふことなきにしもあらずとばかりかの御耳に傳へにしがな、ゆめゆめ緣談相手とおぼさで同鄕の知り人の一人と淺くおぼしなして、時々映畫ドライブなど御付き合ひ賜らば今はそれよりまさること何をか思はむ、忝けれどかかることども御ふみ通はしの序にかの君へ片端ならずぞ傳へたまひてよと我をば拜むばかり、初めはさることいかで傳へやるべき仲人慣らひたる人にこそ賴みたまへと笑ひて聞き過ぐしに、果て果ては涙聲に恨み嘆く人をえ否び果てざりけり、かかること取り次ぐ未だ知らぬことなれば御心にいかが思ふべきとかたはらいたくはあれど、かの人のさばかり心盡くしに願ふことを見放たむもあいなく苦し、未だ御目もじも叶はぬに不躾にかくうち出でてはべる心の內をぞ推し量りたまへ、かかるよしなし事に御心少しも動くべくはまづ御寫眞の交換などいかが、かの兄君よくは知らねど見しかぎりはさる年の頃とも見えずいと若々しき人になむ　あなかしこ　追伸　庭の柿今年は常より色づきをかしきを、御好物と思ひ出でて御慰みまでにまゐらせはべり、幾らも店先に竝ぶべけれどふるさとの味と思しなし御笑納くだされたく